学外研究支援（海外・国内）に係る成果報告書

2026年　3月　31日

北九州市立大学　学長　様

所属・職名　　基盤教育センター・准教授

氏　　名　　金　貞愛　　印

2025年度に実施した学外研究支援（海外・国内）について、下記のとおり成果を報告します。

［実施期間］

2025年　3月1日（土）～　2026年　2月　28日（土）

［出張先］

高麗大学高校（韓国）

［テーマ］在日ディアスポラ作家とアイデンティティー李恢成の初期作品研究

［当初の目標及び成果の要旨］（＊２～４ページ記入）

出張者は、長年にわたり在日コリアン作家・李恢成の初期作品研究に取り組んできた。本出張では、中断していた博士論文の完成を目標に、韓国における在日コリアン文学研究の最新動向を把握し、研究の再構築を図ることを主な目的とした。

研究課題としている在日コリアン文学をめぐる研究環境は、ここ 10 年の間目覚ましい変化が認められ、今回の研修を希望する大きな要因の一つになっている。在日コリアン文学は、日本と韓国にまたがる作家たちの創作であり、当然のことながら、従来、日本と韓国を中心として研究が進められてきた。その後、2010 年に、アメリカにおいて在日コリアン文学のアンソロジーが出版され、2017 年に韓国系アメリカ人のリー・ミンジンによる小説『パチンコ』が話題となって以降、英語圏においても、ディアスポラ文学としての注目を集めるようになってきた。しかし、現在も継続して盛んに論文や著作が刊行されているのは韓国である。日本においては博士論文として在日コリアン文学、あるいは在日朝鮮人文学を主題とするものは５本に満たない。それに対して、韓国では２倍以上存在していて、研究領域としても確立されている。

そのため、現在出張者は在日コリアン文学の先駆者である李恢成に関する博士論文をまとめつつあるが、日本における研究動向はもちろん、韓国における最新の状況を踏まえて論文を完成させることが急務であった。韓国在住の日本文学者、韓国文学研究者と交流し、さまざまな意見を交わすことによって、コリアン・ディアスポラ文学という広い視野に立って博士論文の質を向上させ、また、論文完成後のさらなる研究の発展を図るために、長期海外研修の実現を強く望んでいた。

派遣先の高麗大学校グローバル日本学研究院には、出張者の研究テーマに関連する研究論文を発表した研究者が複数在籍していたため、日々彼らの研究に触れることで最新の研究動向について深く理解できたことに加え、直接の交流を通して韓国における当該研究の現状や課題について議論することができた。また、高麗大学図書館やソウル大学図書館、および国立中央図書館などで在日コリアンの政治や歴史に関する文献を調査し、博士論文執筆に必要な資料を収集することができた。こうした蓄積を日本において収集してきた資料と比較検討することを通して、先行研究の批判的検討を充実させ、博士論文の目的や問題提起をより明確なかたちに整えることができ、各章の議論に関しても、最新の研究や資料調査の結果を反映して、全体の構成を適切なかたちに修正することができた。序章、本論部分の七章、結章の各稿を通して書き終え、初稿として博士論文審査の主査を依頼している筑波大学の指導教授に提出し、フィードバック・コメントを受け取った後、現在は、個々の指摘に関する最終的な修正作業を進めている。

直接博士論文に関連する成果を上げたほかにも、韓国在住の日本文学研究者・韓国文学研究者との交流を通じて、多様な視点から意見交換を行う機会を得たことは、今後の研究を進めるうえで貴重な財産となった。彼らとの意見交換により、在日コリアン文学をより広い「コリアン・ディアスポラ文学」の枠組みから検討する視座を得ることができ、韓国において日本文学について研究、教育する際の課題や、それとは対照的に日本において韓国文学を研究、教育する際の課題、グローバルな次元でディアスポラ作家について検討する材料など、さまざまな視点から自身の研究についてとらえなおす機会を得た。さらに、論文完成後の研究発展に向けた人的ネットワークを構築することができ、今後の研究基盤の強化にも大きく寄与した。

[経過]

２月末 渡韓、韓国高麗大学
３月　韓国における在日コリアン研究動向の把握
４月 同上、韓国におけるディアスポラ文学研究に関する調査
５月 同上、博士論文第一章の完成
６月 同上、博士論文第二章の完成
７月 同上、論文の修正
８月 同上、博士論文第三章の完成
９月 ソウル大学、東国大学、日本文学・韓国文学研究の動向調査
10 月 同上、博士論文第四・五章の完成
11 月 同上、博士論文第六・七章の完成
12 月 同上、博士論文序章・結章の完成
2026 年　２月 同上、論文全体の推敲、帰国の準備

■以下該当ある場合は記入して下さい。
[成果の公表] ＊成果物を別途添付してください。(様式は問いません。)
記入例：(雑誌論文：論文標題、雑誌名、発行年、最初と最後のページを記載して下さい)
(学会発表：発表標題、学会等名、発表年月日、発表場所を記載して下さい)

博士論文の推敲と修正作業中

[参加した学会・研究会・講演会]
記入例：(日時、学会名、場所を記載して下さい)

１）学術大会参加：「戦後日本社会と K-コンテンツ」東国大学校日本研究所学術シンポジウム（東国大学校)、2025 年 7 月 25 日
２）学術大会参加（総合コメンテーター)：「ポスト未来志向的韓日関係とサバルタン研究」韓日国交正常化 60 周年・未来志向的韓日関係 35 周年国際学術シンポジウム（韓国外国語大学校)、2025 年 8 月 14 日
３）学術大会参加（コメンテーター)：「冷戦のメカニズムとゲートウェイ、そしてサバルタニティ」成均館大学校東アジア歴史研究所国際学術大会（成均館大学校)、2025 年 8 月 26 日
４）学会参加：韓国日本語学会第 52 回国際学術大会（中央大学校)、2025 年 9 月 20
５）学会参加：韓国日本学会第 111 回国際学術大会（仁川大学校)、2026 年 2 月 6 日～2 月 7 日